

いわいずみ



ふるさと岩泉の

大家族 ⑬

29年度決算主な復旧事業をピックアップ…2・3

決算審査の「ここをチェック」…………… 4・5

動き出す複合施設整備事業…………… 6

町の考えを問う（8議員が一般質問）… 9～17

森山の佐々木賢治さん一家です。5人の子どもに囲まれてとても賑やかな家族です。おばあちゃんが作る野菜がとてもおいしいと子どもたちは喜んで食べているそうです。

29年度決算

台風災害

からの主な復旧事業をピックアップ



サケ・マスふ化場災害復旧



8億
7233万円

被災者の住宅再建補助など



1億
5618万円

経営体育成支援事業(※)



3億
1224万円

一般会計過去最大の歳出決算 214 億円認定

9月定例会は、9月5日から14日までの10日間の日程で開かれました。一般質問では8人の議員が登壇し、町民バス、龍泉洞の安全管理、鳥獣被害対策など町政全般にわたり議論を展開しました。町長から提案のあった条例、補正予算など23件の議案を審議し、原案のとおり可決しました。29年度一般会計と7特別会計では、決算審査特別委員会を設置し、集中審査の結果、すべての決算を原案のとおり認定しました。ここでは、決算の主な事業をお知らせします。※決算額は、29年度のみのものであり、全体の事業費ではありません。

災害廃棄物処理・被災建物撤去事業



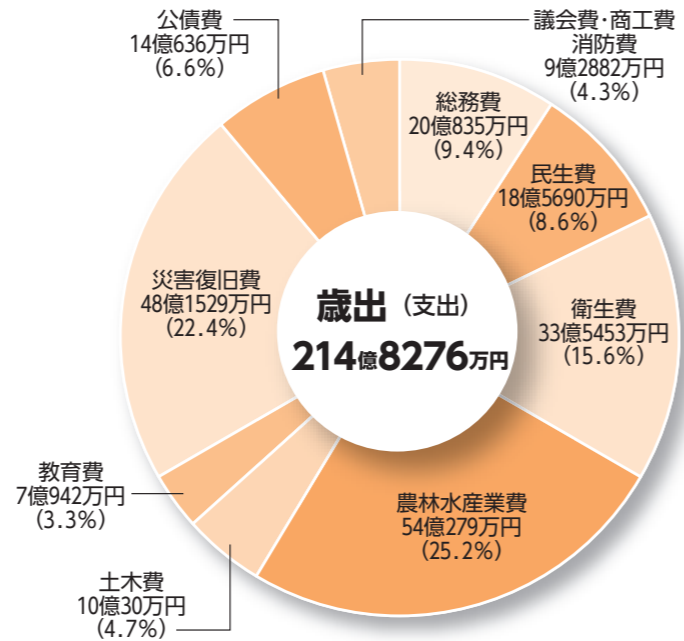
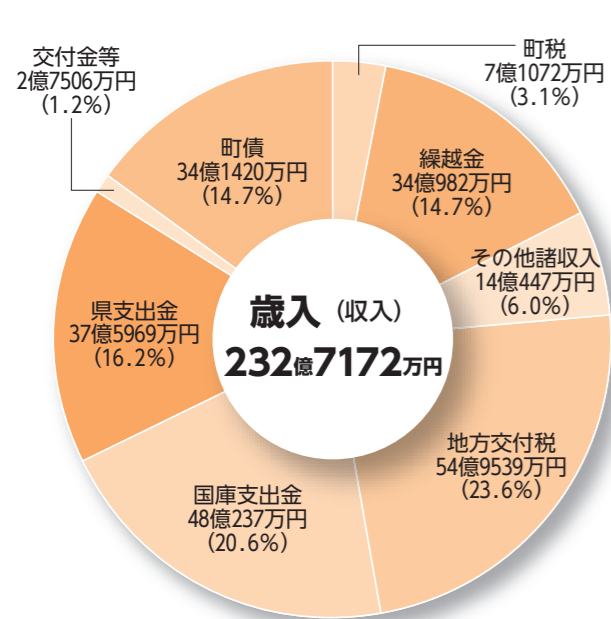
処理前



処理後 処理量 約7万8千トン

26億
5357万円

一般会計決算の内訳



(※) 経営体育成支援事業 台風により被災した農業者の農機具や農業用倉庫などの復旧補助

道の駅いわいずみ災害復旧



1億
4482万円

消防団施設の復旧



1億
1017万円

次は、決算審査の「ここをチェック」



決算審査の

29年度の一般会計および各特別会計の決算は、決算審査特別委員会（坂本昇委員長）で審査しました。6月から7月にかけて開催した「議員と語る会」で町民の皆さんから提言のあった事項など、町政全般にわたりたくさんの方の質疑がありました。ここでは、いくつかの内容を要約してお伝えします。

政 地方債の今後の償還額は 財町の負担は5億5千万円

問 災害復旧などの関係で、一般会計の29年度末の地方債（※1）現在高は、161億円である。償還のピークはいつで、いくらの見込みか。

億5千万円大きくなると試算している。

答 償還のピークは、32・33年度で、年間約19億円と見込んでいます。地方交付税（※2）措置を除く町の純負担は、5億5千万円程度となる。通常の年は、約3億円の町の純負担であるため、2

おしゃべり家さん

（※1）地方債とは
地方公共団体が、収入の不足を補うために、国や金融機関から借り入れる資金で、1会計年度を越えて返済される長期借入金をいいます。

金 滞納処分の取り組み状況は 税 給与など差し押さえを実施

問 一般会計、特別会計合わせて約3千8百万円の収入未済額（※3）がある。財産差押など滞納処分の取り組み状況は。

答 29年度の滞納処分の状況は、動産1件、預貯金38件、給与など3件、国税還付金4件の差し押さえを実施した。

生活 行政区割再編の方向性は 地域の実情を考慮し検討



二度の災害を受け区割再編が必要な小本地区

問 人口減少や高齢化の影響で、小さな集落では維持していくことも大変だ。行政連絡員のなり手も不足している。どのようにしていく考えか。

問 配布する文書やチラシが多すぎる。ピーチャーンねつとを有効に使うなど工夫してほしい。月2回の配布を1回にできないか。

答 集落が小さくなって厳しい話を聞いている。台風災害の復興状況を見ながら、どういう方向がいかに具体例を挙げながら、現在内部で調査研究をしている。

答 町としては、極力チラシを抑え、広報とピーチャーンねつとでの周知ルールを決めて実施している。他団体のチラシなどが増えており、調整が難しい。月1回の配布は研究する。

おしゃべり家さん

まちの声

田代 庄治さん
（大川 77歳）

私たちの地区では、行政連絡員は順番制です。高齢者が多く、なり手を探すのが大変です。寄付などの集金、物資のあっせんは特に手間がかかります。配布する文書、チラシが以前より多い気がしますので、減らしてもらえればみんなが助かると思います。

問 東日本大震災や台風第10号の被害により、町民の居住地が大きく変化している。町全域の行政区の再編をする時期に来ていると思うがどうか。

答 全町の行政区再編については、一定のルール作りも必要と考える。地域の実情を考慮しながら調査検討していく。

農 業 ワサビの洗浄料金は 試験稼働後決定する



洗浄機の導入でさらなる生産拡大に期待

問 ワサビの育苗施設での秋苗の状況は。

答 1万本を目標にしていたが、種の確保の問題もあり、現在7千本の苗を作っている。

問 整備した洗浄施設は稼働しているのか。料金設定は。

答 洗浄料金を設定するため、現在、試験稼働を行っている。今後、農家などと協議のうえ、洗浄料の妥当な金額を決定していく。

おしゃべり家さん

まちの声

吉澤 誠さん
（小川 40歳）

ワサビの産地として生産者の維持拡大が課題です。洗浄施設ができたことで、ネックであった洗う手間が省けることは、出荷量や新たな生産者の確保に結びつくと思います。

住 宅 住宅施策のバランスを 地域の意見を聞き対応

問 町営住宅、定住促進住宅や子育て応援住宅などの住宅施策は、町中心部に一極集中している。町内全域に目配りし、バランスよく総合的な住宅施策を講じるべき。

問 学校統合などにより空いている教員住宅をリフォームして、若者や地域住民に貸し出せないか。

答 住宅施策は、今後見直しや強化が必要であると考えている。各地域の状況や悩みはそ

答 ささまざまな活用方法があると思われる。内部で調整をしながら有効な活用策を検討していく。

調査特別委員会を設置

◆委員の定数
議長を除く全議員13人

◆委員長・副委員長
委員長 畠山 直人
副委員長 坂本 昇

◆調査の期限
調査が終了するまで

◆名称
平成29年度地域医療確保対策補助金調査特別委員会

済生会若泉病院への補助金（地域医療確保対策補助金）の内容について調査するため、9月14日の本会議において、特別委員会を設置しました。

次は、動き出す複合施設整備事業

動き出す複合施設整備事業



復旧・復興事業が本格化する安家地区

条例補正予算等審査特別委員会（林崎寛次郎委員長）は9月7日に開かれ、岩泉町国民保護協議会条例の改正や岩手県による安家川河川改修に伴い移転が必要な安家支所などの町有施設を集約する、安家地区複合施設整備事業5千4百万円を含む補正予算など6議案を慎重に審査しました。

その結果、付託された議案すべてを原案のとおり可決すべきものと決定し、同日開かれた本会議において、全会一致で可決しました。

ここでは、特別委員会の審査の中からいくつかの質疑を取り上げ、内容を要約してお伝えします。

安家地区復興のシンボルへ

複合施設の概要

- 機能
安家支所庁舎、消防屯所、診療所、集会施設（避難所機能）、備蓄倉庫、トイレ、ロビーなど
- 施設の床面積
約900㎡
- 工事費概算
約5億6千万円
- 完成予定
31年度

復興 安家複合施設の整備計画は 住民と意見交換し設計する

問 安家地区の複合施設に、テナント用のスペースや産直施設を入れることは出来ないか。

すれば使いやすいのか、住民と意見交換をしながら、より良い整備計画を立てる。

答 整備計画の中で、敷地の面積や建物の規模などを考慮しながら検討していく。今の時点では、産直と複合施設は分けて考えている。

問 計画では木造平家建て屯所も入ることから2階建ても検討すべきでは。

答 この施設は防災拠点機能も兼ねることになっている。どのような施設に



玉澤 雅子さん（安家 55歳）

おしゃべり ますの声

1カ所で用が足りるので、複合施設が出来るとは大変良いことだと思います。しかし、現在の支所より50メートル上流に建設予定と聞いています。歩いて施設に行く人、特に高齢者は大変だと感じており、配慮が欠けていると感じます。また、生活改善センターの名称はイメージが良くないので、もう少し希望の持てる名称に変えることは出来ないでしょうか。

農業 産地パワーアップ事業の概要は 一次産業の活性・産地化を図る

問 産地パワーアップ事業の内容と補助を受けられる対象者は。

答 補助率は事業費の2分の1である。

問 この事業に必要な条件や届け出書類などは。

答 農業者の労働力の軽減、栽培コストの削減と販売額アップを図るための国の補助事業である。対象者は、地域農業を将来にわたってリードしていく人で、個人・法人の制限はない。

答 個人の場合は、経営を確保するために、青色申告をしている人、後継者の確保がされている人が条件である。さらに、栽培コストの10パーセント削減か、販売額10パーセント増の数値目標が必要である。

問 補助金の率は。

人参栽培の大規模化を目指すして「野菜天国おもと」にシフトして、手続は大変な苦労したが、収穫機械購入の2分の1補助はとても助かります。

おしゃべり ますの声



山崎 司さん（小本 37歳）
山崎 学さん（小本 37歳）
竹花卓也さん（小本 39歳）

農業を通して、台風災害で支援いただいた多くの人に恩返しをしたいです。

岩泉球場周辺の環境整備を 関係機関と協議し対応する



周辺の整備が望まれるサブグラウンド

問 岩泉球場のサブグラウンド3塁側の観覧場所が未整備だ。整備する考えはないか。

答 球場利用者や野球協会関係者から意見を聞き、現地確認のうえ対応する。

問 球場が国道沿いにある安全確保のため、ガードレールの設置や目隠しなどを設けるべき。

おしゃべり ますの声



金澤 輝美さん（小本 40歳）

答 道路管理者である県とも連携を取りながら、良好な競技環境づくりに努める。

3塁側の応援スペースは、デコボコでぬかるんでいるところがあり、テントやいすを置くのに斜めになり不便です。ガードレールが無い箇所もあり、危険な感じがします。フェールボールがネットを超えて道路にいく時もあるので、走行中の車にあつたら大変な心配しています。

町教育委員 大川さんの再任に同意



大川 義之さん（岩泉 64歳）

人権擁護委員の推薦



木村 一枝子さん（岩泉 70歳）

主な補正予算

- ▼安家地区複合施設設計委託料 5403万円
- ▼子ども・子育て支援事業計画策定ニーズ調査委託料 254万円
- ▼産地パワーアップ事業補助金 147万円
- ▼生活道整備事業補助金（台風） 3256万円
- ▼安家川河川災害復旧等関連緊急事業負担金（台風） 5280万円
- ▼携帯電話用伝送路災害復旧移架工事（台風） 1500万円

町の考えを問う

一般質問

議員と語る会、その後の対応

議会はどう対応

議会では、6月から7月にかけて開催した「議員と語る会」で、町民の皆さんから出された意見などを集約し整理しました。

その中で、議会会議録のホームページでの公開と岩泉小本駅案内看板の改善、生活道に関する調査については完了しました。

9月定例会においては、各議員が「議員と語る会」を受けて問題・課題とした内容について、質疑や提言を行いました。項目は、次のとおりです。詳しい内容については、該当するページをご覧ください。

- 行政連絡員のなり手不足と行政区の再編 (5ページ)
- 総合的な住宅施策 (5ページ・16ページ)
- 町民バスの無料化 (10ページ)
- 災害復旧・復興工事 (12ページ)
- 鳥獣被害対策 (14ページ)
- 道路整備 (15ページ)

アンケート結果

参加者131人中80人から回答をいただきました。

参加者の年齢構成は、60代が最も多く、男女比率は、約7割が男性でした。

自由記載では、人口減少や高齢化問題を議論したいという意見があり、今後のテーマとして検討していきます。皆さんからの主な意見は次のとおりです。

- 議員は、身近な問題にも知識を持ってほしい
- 10年後の岩泉を語る会にしたい
- 語る会での質問などに対する結果を後日報告してほしい
- あらかじめアンケートを取ってから開催する方法もいいのでは
- 話をしたことは、確実に行動、実行してください
- 広報の表紙が好きです

次回は、若者や女性を中心とした語る会を開催する予定で準備を進めています。

8人の議員が発言

9月定例会では、8人の議員が一般質問に登壇し、産業、教育、交通、医療など町政課題への提言、質疑を活発に行いました。

質問と答弁を要約した内容は、10ページから17ページです。登壇順にお知らせします。

会議録を町ホームページに公開

議会では、30年第2回(6月)定例会分から会議録を町ホームページに公開しております。

9月定例会の会議録は、11月下旬ごろに掲載しますので、ご覧ください。

これまでどおり、町立図書館または役場各支所図書室でも閲覧可能です。



町民の声を反映

はたけやま まさのり
畠山 昌典 議員 (10ページ)

- ◎教室へのエアコン設置を
- ◎町民バスの一部無料化を

や え がしりゅうすけ
八重樫龍介 議員 (11ページ)

- ◎安家地区の活性化策を示せ
- ◎自転車による交流人口の拡大を

さかもと のぼる
坂本 昇 議員 (12ページ)

- ◎災害復旧・復興工事の工程管理は
- ◎龍泉洞の安全管理に配慮を

み た ち ひ さ し
三田地久志 議員 (13ページ)

- ◎常設ヘリポート設置を
- ◎施設園芸で定住化対策

はたけやま かずひで
畠山 和英 議員 (14ページ)

- ◎鳥獣被害防止対策の強化を
- ◎鳥獣被害対策実施隊員の確保は

の だ て や す き
野舘 泰喜 議員 (15ページ)

- ◎早期に浅内バイパスの整備を
- ◎道路要望活動を個別具体的に

み た ち か ず ひ こ
三田地和彦 議員 (16ページ)

- ◎住民の基盤、岩泉型町営住宅を

は や し ざ き き ょ う じ ろ う
林崎竟次郎 議員 (17ページ)

- ◎医療費減免は年明け後も
- ◎医療費の現物給付の拡充を

町民 岩泉小本駅の案内看板を改善すべき

議会 岩手県において案内看板を設置完了



町民 議会 町民 議会

町民 議会への会議録をインターネットで閲覧可能に

議会 本年6月定例会分から町ホームページに掲載



教室へのエアコン設置を

岡山県議員 山田昌典

猛暑対策を積極的に 三上教育長

問 今年も非常に暑い日が続き、熱中症などの予防も各方面で叫ばれている状況にある。
子どもたちは、なおさらその状況は深刻であり、全国的にもこの問題に対する危機意識が高まっている。

その対策の一つとして、小中学校の教室にエアコンを設置する考えはないか。勉強に集中でき、健康面に配慮した快適な環境を整備すべきと思うが、教育長の所見を伺う。



子どもたちに快適な学習環境を

教育長 全国の小中学校の普通教室へのエアコン設置率は49・6パーセント、岩手県は1・1パーセントとなっている。本町では、猛暑時期と長期休業時期が重なることから、小中学校の普通教室には、エアコンを設置していない状況である。しかしながら、本年の記録的な猛暑は、児童生徒の学習や健康面に及ぼす影響が懸念されることから、何かしらの対策は必要であると認識している。

政府は、全国の公立小中学校にエアコンを設置するため、秋の臨時国会に補正予算案を提出する方針を固めたとの報道がされた。これら国の政策状況も見ながら、猛暑対策には積極的に対応していく。

町民バスの一部無料化を調査・研究を進めていく

問 近年、高齢者ドライバーの事故や、免許の自主返納などが全国的に話題となっている。公共交通機関が少なく、広範な面積の本町では、自家用車を手離せない人も多くおり、深刻な問題である。少子化に伴い、町内の学校統合が進むにつれて、学区が広くなり、子どもたちの活動範囲においても移動距離が長くなっている。

町長 バスなどの公共交通機関は、交通弱者である児童生徒や高齢者の移動手段として、なくてはならないものと認識している。本町では、65歳以上の町内バス利用者に対して、運賃半額支援や岩泉高等学校の生徒に対する通学費補助など、独自の支援策を講じ、利用者の経済的負担軽減に取り組んでいる。町民バス無料化については、近隣町村で実施しているところもある。それらの情報も得ながら、クリアすべき課題について調査・研究をし、総合的に検討していく。

17文字のひとりごと
温暖化
子どもは待ってる
近代化



安家地区の活性化策を示せ

八重樫龍介 議員

地域の意向を重視して再建

中居町長

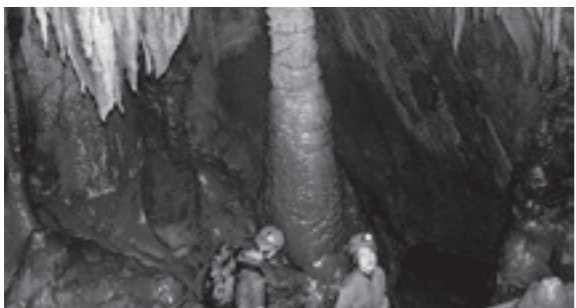


イベントで元気を“あっか感謝祭”

問 安家地区は、2年前の台風災害により、住宅は無数のこと主要な公共施設も被災した。

その中でも安家産直施設は、住民の交流の場であり、そして数少ない現金収入の場であった。産直施設の今後の方向性を示せ。

併せて、地区が縮小し住民が疲弊している中で、企業誘致も立地条件やマンパワー不足などの問題で難しい状況である。希望を抱いてもらう施策の一つとして、閉洞状態にある水渡探検洞の再開策を早急に検討すべきと考えるが、町長の見解を問う。



再開を望む水渡探検洞

町長 安家産直施設は、地域活性化の起爆剤として平成28年5月にオープンしたが、台風により被害を受け、昨年、解体撤去を行った。産直施設の再建に当たっては、地区の資源を活用し、地域が誇れる産直施設とすべきと考えている。今後、地域住民と膝を交え、意見調整を図りながら、地域の意向に沿える形で再建を進めていく。水渡探検洞は、平成22年から閉洞状態にある。入洞者の安全確保やリスク管理、運営体制など、一つひとつの課題をクリアし、再開に向けてより一層努力していく。

自転車による交流人口の拡大を 導入支援に向けた検討を進める

問 龍泉洞に訪れる観光客を町内に波及拡大するため、長年の課題である。

そこで、観光事業のツールとしてレンタサイクルを展開する考えはないか。自転車による観光は健康的で景観をより楽しめ、風・音・香を体感できることから、自然豊かな本町に適している。

龍泉洞から町内へ人の流れを作ることで、交流人口の波及拡大に繋がり、観光客の多様なニーズに対応することができると思うが、町長の見解を問う。

町長 龍泉洞に訪れた観光客をうれいら通り商店街に誘導するための方策として「恋人の聖地」である「初恋水・百恋水」を中心とし

た取り組みなど、商店街の賑わいを創出する施策を展開してきた。自転車を活用した事業は、通過型の観光客が多い本町において、新たな時間消費型で、一つのモデル事業として取り組むことが可能と考えられる。今後、関係団体と協議を重ね、合意が得られるよう努めながら、導入支援に向けた検討を進めていく。



17文字のひとりごと
質問が
的を射たかと
我に問う



常設ヘリポート設置を

三田地久志 議員

駐車場などを活用する

中居町長



問 台風10号関連の公共土木施設の災害復旧工事は、約99%が発注済であるとの報告を受けた。

通常、年間の工事発注額は、5億円から7億円程度であるのに対し、本復旧工事は、総額200億円を超える工事額となっている。事業費、件数とも膨大な状況であり、工期内に完成できるのか。全国から駆け付けている協力業者と住民との間にトラブルなどはないか。財源確保についても影響がないか伺う。

町長 本復旧工事は、過去に類を見ない規模、件数である。さらに工事を短期間で完了させなければならぬという非常に過酷な条件となっている。

災害復旧・復興工事の工程管理は

坂本 昇 議員

応援職員とともに早期完遂に努力

中居町長

公共土木施設の復旧工事、災害公営住宅や宅地分譲など、未曾有の大災害による尋常ではない規模の工事である。請負業者への指導、関係機関との調整、地権者への協力依頼などを行い、他市町村からの応援職員とともに一日でも早く事

業の完遂に努める。業者と住民の間では、ごみの分別についてのトラブルが発生しているが、その都度、請負業者へ改善するよう指導している。財源確保についても、国・県に対して協議を続けていく。



護岸工事が進む有芸



命をつなぐヘリポート

問 平成28年8月30日、忘れもしないあの台風10号豪雨災害に見舞われ、その際に孤立した集落の人命を救助したのはヘリコプターである。

さらに、本年4月に連続して発生した山火事の消火活動においても、ヘリコプターが活躍した。

地域防災計画に示されている緊急ヘリポートは、9カ所となっているが、ほとんどが学校である。

各地区に最低でも1カ所以上常設のヘリポートを設置し、さらに水利も備える考えはないか町長に聞く。

町長 町内各地区には、一部重複があるものの、ドクターヘリのヘリポートが15カ所あり、救急搬送などにも最大限対応できるものと認識している。

舗装施工したヘリポートの設置については、水利確保も含めて、適地の調査や公共施設の整備に併せ、駐車場をヘリポートとして活用するなど検討していく。

現在、ヘリポートとして使用している各学校の校庭についても、引き続き理解を得ながら、消防署と連携を図り、安全確保に十分努め活用していく。

龍泉洞の安全管理に配慮を安全と快適性を第一に対応

問 龍泉洞の安全管理には細心の配慮が不可欠である。7月15日に開催された龍泉洞夏まつりの入洞者数は3千5百人を超えたが、迂回路による一方通行の手だてはされなかった。観光客の安全性や快適性を確保する観点から、再考すべきだ。混雑時に龍泉洞内を一方通行とする基準やマニュアルは作成されているのか。

町長 迂回路による一方通行は、過去数年間の入洞者数から推測し、一日3千人を超える見込まれる場合に実施している。お客さまの安全と快適性を第一に考えた運用を図る観点から、早急に、一方通行を実施する人数の基準の見直しに着手したところである。急きよ混み合った際の対応についても改善していく。

石灰岩にアンカー固定している橋脚や腐食しやすい木製の床板の安全点検の実態を示せ。

17文字のひとりごと

大災害

過酷な工事

光る技術

施設園芸で定住化対策事業化を検討していく

問 全国の事例では、農林水産省の補助金により園芸施設を無償で貸与し、数年後には無償で譲る施策を行い、定住化対策としている自治体がある。

農林水産省の補助要件は、実施主体が法人であることだが、町でも同様に取組むべきと考える。

例えば、3人以上で法人化すること。その中に岩手大学で実施している、いわてアグリフロンティアスクール(※)を受講したアグリ管理士が1人以上いることなどを条件とし、定住化と産業振興の新しい仕組みを作ることを提案したい。町長の考えを聞く。

町長 町の定住化を図るための町独自の園芸施設の貸与などによる産業振興の仕組み作りは、町でも取り組むべき施策だと認識している。

いわてアグリフロンティアスクールの受講を積極的に関係機関と連携し、推進していく。

町のハウス貸し付けの事業化は、将来にわたり営農していくための負担の少ない形での事業である。条件を付して入口を厳格化し、前段の農業者育成と並行しながら事業化について検討していく。

17文字のひとりごと

人づくり

仕組みづくりが

町づくり

(※) いわてアグリフロンティアスクール 国際競争時代に通用する経営感覚と企業家マインドを持った農業経営者などを養成するため、岩手大学に設けているもの(岩手県ホームページより)



鳥獣被害防止対策の強化を

畠山和英議員

地域が一体となって取り組む 中居町長

問 近年、熊の被害に加え、鹿、ハクビシンなどによる被害が増加している。年々恒常的に発生し深刻になっている鳥獣による人身や農作物の被害を防ぐため、どのような対策を考えているか。

町長 地域住民が安心して生活するためには、有害鳥獣の防護、防除と捕獲、同時に生活居住域に寄せ付けない対策も取り組む必要がある。

電気牧柵や防獣網設置の工夫、刈り払いによる緩衝帯の整備、廃棄農畜産物の整理、鳥獣駆逐用花火の活用など来年度から地域が一体となって取り組んでいくよう、その手法を検討していく。

問 捕獲鳥獣の処理対策は、緊急に進めるべきだが、どのように考えているか。ジビエ（※）の活用は、野生鳥獣の被害防止対策とともに、地域資源の有効活用にもつながる。鳥獣の肉や皮などの利活用対策をどのように進めていくのか所見を伺う。

町長 捕獲鳥獣の残さ処理は、宮古広域焼却施設の活用、町内への処理施設の整備、または、実施隊員の報酬改定など様々な手法が考えられる。今後、実施隊員と協議を重ね、実効ある方法を検討していく。

鳥獣被害対策実施隊員の確保は 狩猟免許取得の町支援広く周知

問 捕獲を支える実施隊員の確保や育成が課題と思われる。どう養成していくのか。

町長 実施隊員は、猟友会に3年以上所属した44人と町職員で編成され、ツキノワグマやニホンジカ、カワウの捕獲に取り組んでいる。



ハンターの育成が急務

(※) ジビエ 鹿やイノシシなど、狩猟によって捕獲された野生鳥獣の肉

早期に浅内バイパスの整備を

野館泰喜 議員

県と綿密な協議を重ね取り組む 中居町長



問 押角トンネルが平成32年度開通予定だ。その前後の国道340号の整備について伺う。

落合から押角までは長い。より具体的なプランを提示することが事業の進捗よくに拍車をかける。以前から危険箇所の落合・川代2・3キロメートル区間をピンポイントで整備要望するべきだ。その際、町で用地交渉を済ませておくことが事業遂行を早めると考える。町の見解を聞く。

町長 県では、本年度調査費を予算化している。まず、



早期改良を望む国道 340 号

道路要望活動を個別具体的に 結果を出すための研究を継続

問 本町では国、県、政党への要望など、各種要望活動を毎年行っている。その内容は道路整備に関する問題がほとんどだ。

要望書は、ここ10年くらいコピーの連続という印象がある。訴求力を高めるために、個別具体的なピンポイントの整備要望を毎年加味していくべきだ。結果を出すことに集中した要望活動の展開を期待するがどう考えるか。

町長 要望項目は、予算上あるいは制度上容易に実現が困難な事象について、最も効果的と思われる構成として作りこんでいる。特に、道路関係要望については、地域住民の悲願を叶えるべく、継続的な要



望をしてきた。近隣市町村との連携に留意し、具体的な箇所について優先順位をつけるなど、研究の余地はあると認識している。これまでに、結果を出すための努力を継続していく。

17文字の
ひとりごと

九十九折る
山路がやがて
希望の路

17文字の
ひとりごと

地域挙げ
シニアハンター
狩り女性



住民の基盤、岩泉型町営住宅を

三田地和彦議員

新たな制度設計を鋭意検討する 中居町長

問 住民の生活基盤である住宅対策を早急に進めるべきだ。

町長 町には、町営住宅、定住促進住宅や子育て応援住宅などがあるが、現在の町営住宅とは異なる条件の住宅を考へてほしい。

国では人口減少は地方から立て直すとの考へである。町の人口減少、高齢化や少子化対策に合った、次のような住宅を考へていただきたい。

木造2階の一戸建て、低家賃で、25年住めば無償譲渡できる「岩泉型町営住宅」である。

高齢化が進むとともに高齢者が減少していくと、人口は減少するのみである。その証拠に園児や小学生が減っている現状だ。住宅対

策のみでは解決できないかもしれないが、何らかの対策をすべきである。

兄弟が家族を連れて帰って来ても泊まれる環境、つくりや結婚を考へている人、住宅建設を考へている人のために、町が手を差し伸べる考へはないか。

町長 町の住宅施策は、台風豪雨災害後も町営住宅の建て替えや定住促進住宅の建設、新築住宅を希望する人を対象として、宅地造成を行ってきた。

新たな取り組みとして、子育て応援住宅を戸建てで12戸建設した。

定住化の一環として、平成29年4月から「岩泉町空き家・空き地バンク」の運用を開始し、本年度からは、

登録物件を増やす手だてとして、空き家実態調査を始めた。

将来の無償譲渡を想定した岩泉型町営住宅の整備は、今現在、台風豪雨災害に係る復旧工事と災害公営住宅の建設、被災された人の移転地造成工事を優先して進めており、早急な事業実施は困難な状況である。

三陸沿岸道路の整備など、町内情勢も大きく変化する中で、これまでの住宅対策に加え、人口減少をくい止めるための住宅対策の幅を広げていく必要があると強く認識している。

内部での検討組織の立上げ、必要によっては、調査費などの予算計上もしながら、来年度に新たな制度設計を鋭意検討していく。



30年度に入居開始した子育て応援住宅

17文字のひとりごと
家づくり
新たな施策
各地区へ



医療費減免は年明け後も

林崎竟次郎 議員

一定の期間継続していく

中居町長



被災者に寄り添った医療

問 台風10号豪雨災害により、応急仮設住宅にはまだ不自由な生活を余儀なくされている人がいる。

このような中、通院や入院、介護施設などを利用している被災者やその家族にとって、国保医療費などの減免措置は経済的負担が軽減され、心底感謝し喜んでい

る。東日本大震災の医療費などの免除措置が継続する方向の中で、台風10号豪雨被災者と東日本大震災の被災者の思いは同じである。台風10号豪雨被災者の国保医療費などの減免措置

も、東日本大震災被災者と同様に、平成31年1月1日以降も継続すべきだ。町長の考へはどうか。

町長 いまだ応急仮設住宅で暮らしている人もいる状況で、住宅建築支援や災害支援金による支援、あるいは支所配置した保健師による継続した心と体の健康支援などを行っている。

台風豪雨災害の国保医療費などの減免措置については、被災された人の生活状況を勘案し、一定期間、継続していく。

医療費の現物給付の拡充を 小学校卒業まで実施を検討

問 医療費の現物給付(※)を小学校卒業まで拡充し、子育て世帯が安心して医療を受けられる環境を整えるべきと考へるが、その見通しは。

県内では、高校卒業まで医療費助成を行っている市町村が、半数以上にのぼっている。本町でも、高校卒業までの医療費助成の拡充と受給者負担額の撤廃を検討する時期にきていると考へる。町長の所見を伺う。

町長 県内全市町村間で、小学校卒業までの現物給付化を目指し、実施時期や県の役割などの意見交換を行っている。来年度中には実施する方向で、現在取り組んでいる。



その他の質問

▼東日本大震災被災者の国保医療費の窓口負担、介護保険利用料の一部負担の免除措置の継続について

成の拡充、受給者負担額の撤廃については、総合的な視点を持つての子育て支援策、ひいては定住化対策につながるよう調査・研究していく。

17文字のひとりごと

被災者の医療費減免
いのち綱

次は、請願・臨時会・常任委員会

(※) 病院を受診した際、窓口での支払いが無料または少額となること。

請願

9月定例会に提出された請願は、1件でした。
総務常任委員会に審査を付託した結果、次のとおり決定しました。

請願件名	請願人	紹介議員	審査の結果	本会議での結果
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める請願	岩手県教職員組合 下閉伊支部 支部長 菅原昭敬	小松ひとみ	採択	採択に全員賛成 国の関係機関に意見書を提出

第2回臨時会

災害公営住宅建築 工事案件など可決

第2回臨時会は、7月24日に開催され、財産(動産)の取得に関する1議案と工事契約に関する6議案について審議しました。
その結果、議案すべてを原案のとおり全会一致で可決しました。

■財産(動産)の取得

▼取得する財産 小型動力ポンプ付積載車 2台
金額 1987万円
配置先 消防団第2分団
第3部2班(鼠入)と第8分団第2部(川口)



同型の小型ポンプ付積載車



建築工事が始まった上町団地

■主な工事

▼工事名 上町団地災害公営住宅建築工事
金額 1億8349万円
請負者 (株)畑中組
▼工事名 安家日向地区災害公営住宅・被災者移転用地整地工事
金額 6696万円
請負者 (株)畑中組
▼工事名 三本松東地区災害公営住宅用地整地工事
金額 5994万円
請負者 高德建設(株)

産業 常任委員会 レポート

7/13 ワサビの 生産拡大

これからのワサビ生産の拠点となる、乙茂地区の加工施設と小本地区の育苗施設を視察してきました。

【所感】

新設されたワサビ加工施設は、衛生管理が完璧に行われていた。生産者にとつては、洗浄機が導入されたため、泥付きで出荷することができるよう。今後は、作業の軽減が図られ増産が期待される。
育苗施設は、秋苗10万本を育苗できるとのこと。できたばかりの施設であることから、今後の利用度合いがどのようになるか注視していかなければならない。
(三田地久志)



前森山集団農場を視察する委員

7/25 可能性を探る 大規模牧場へ

八幡平市にある、(株)前森山集団農場に行き、本町での大規模牧場の可能性や方法について、先進地の事例を視察してきました。

【所感】

本町の酪農振興を考えると、フリーストール牛舎(※1)でのミルクングパーラー方式(※2)は、小労力で最大の生産を目指すうえで可能性があると思う。
既存酪農家への補助制度を確立し、個々の生産拡大を目指していくことも考えるべきである。(野館泰喜)

(※1) 牛をつながない牛舎の形態のこと
(※2) 主にフリーストール牛舎で使用される搾乳施設で、一度に10頭前後の搾乳ができる

母親と二人暮らしです。仮設住宅は、電気設備など便利な面はありますが、四畳半二間は狭すぎて我慢している現状です。



米内山 孝治さん
(岩泉中野団地 51歳)

災害公営住宅の具体的なイメージは、まだよく見えていません。抽選という場合もあるようなので、早く母親を落ち着いた生活にさせてあげたいです。仏壇も写真も泥だらけで、捨てるをえまませんでしたので、公営住宅に入ったら色々と揃えたいと思っています。
今後の家賃がどうなっていくのか不安を感じてしまいます。



中川原 照男さん
(安家日蔭第2団地 65歳)

被災前は酒店を営んでいました。あの台風で住宅兼店舗は基礎ごと濁流に飲み込まれ、生活改善センターで、全くプライベートが保たれない避難生活を約4カ月間過ごしました。

ようやく仮設住宅に入居したときはほっこりしました。しかし、冬は結露がひどく布団もびしょびしょでした。春にはカビがひどく、体調を崩し、入院してしまいました。
災害公営住宅には、家族4人で入居予定ですが、役場からの説明が足りないと感じています。
被災者は先行きが大変不安です。少しでも良い話が聞けると希望の光が見えますので、被災者に寄り添った対応を希望します。

まちの声

仮設住宅で暮らし、災害公営住宅に入居を希望している人に、現在の心境を聞きました。



ひとりで仮設に暮らししています。
仮設住宅には、クローラーまで付いていて、お



山崎 セツさん
(岩泉中野団地 82歳)

かげさまで住んでいますが、期限があるので不安でしたが、災害公営住宅ができるということなので、安心してました。
仮設は仮の宿ですが、やっぱり本家に落ち着けると思いました。ほっとしています。
上町は育った場所なので、そこに住めるのはとても嬉しくて待ち遠しいです。



山岸 貞夫さん
(滝の上団地 79歳)

仮設住宅に約2年暮らししています。慣れたようでも落ち着きません。自分の家がなくなつた喪失感は想像以上に辛いです。
比較的早く公営住宅に入居できるのは嬉しいのですが、住所変更や行政

区変更などの手続きが心配です。
戸建ての公営住宅に入る予定なので、仮設にくらべて隣近所に気兼ねなく生活できるのはありがたい。しかし、持ち家ではかからなかつた家賃などを考えると不安があります。
公営住宅の生活に慣れて、落ち着いてくれば明るく過ごせると思います。
これから、行政のさまざまな援助が必要と感じていますので、よろしくお願ひします。

